

## 1. 思い浮かぶ（使ってみようと思う）優しい日本語

目的地	→ 行きたいところ（場所）
マナーモード	→ 音が鳴らないこと
暴飲暴食	→ たくさんのお酒を飲んで、食べて、体に悪いことをする
腹痛	→ おなかの痛み
土足厳禁	→ 靴を脱ぐ
読書	→ 本を読むこと
通知表	→ 勉強の進み具合
通学	→ 学校へ行くこと
駐車場	→ 車をとめるところ
送迎	→ おくりむかえ
少々お待ちください	→ 少しの時間まってください
出欠	→ 来ている人と休んでいる人を確認します
授業	→ 学校の勉強
終了です	→ おわります
集合	→ あつまること
集会	→ あつまってあうこと
時間割	→ いつ何を勉強するかを書いてあるもの
給食	→ 学校のごはん（昼ごはん）
音楽	→ 音を楽しもう、わくわくしよう
運動会	→ みんなでいろいろなスポーツを楽しむ会
危険	→ あぶない
難しい	→ できない
誕生日会	→ クラスの子どもの生まれた日をみんなでお祝いすること
就寝	→ ねること
おたより	→ 学校からのお知らせ
危険	→ あぶない
集会	→ みんなで集まって話を聞く
職員室	→ 先生が仕事をしている教室・こまったことがあったらここへ来てね
進級	→ 次の学年（○年）のクラスになること
着脱	→ 服を着る事 脱ぐ事
持参する	→ 持って行くこと
確認	→ たしかめる
朝学	→ 朝する勉強
終わりの会	→ 帰りの話
夜食	→ 晩ご飯のあと、お腹空いて食べる物
駐車	→ 車を停めること
避難訓練	→ 危ない時に逃げる練習

避難訓練	→ 大きな事故があった時のための練習
朝食	→ 朝ご飯
小学校	→ 子どもたちが勉強するところ
連絡帳	→ 明日の勉強の順番を書く紙
歩行	→ 歩くこと
会話	→ 話す事・聞く事
昼食	→ お昼ご飯
修学旅行	→ 学校の最後の旅行
授業参観	→ 授業が見ることができる
月末	→ 1月31日
児童	→ 小学生

## 2. 感想(要約版)

### ①気づき・実践意欲

#### ◆日本語の「当たり前」の再考

普段使う言葉が外国人や子どもにとって難しいと気づき、「やさしい日本語」の必要性を実感。

例えば、「はさみの法則」や「言い換えのコツ」で、言葉の選び方がコミュニケーションの質を左右すると学んだ。

#### ◆外国人の立場への共感

日本語が難しいだけでなく、文化の違いや不安を抱える人々の心情を理解し、「やさしい日本語」や英語以外の選択肢の価値を認識。

「英語よりやさしい日本語が良い」という声に驚き、言語選択の再考が必要と感じた。

#### ◆多文化共生への意識向上

学校や地域での「やさしい日本語」普及が、外国人や日本語が苦手な人々の安心感に繋がると実感。参加者の感想からも、保育園や学校などでの活用意欲が高まったことが伝わる。

### ②課題・要望

#### ◆時間的・環境的制約

学年末の開催で多忙だったため、1学期など余裕のある時期の開催が望ましい。

会場の座席配置（前方の影）など、物理的な改善が必要。

#### ◆グループワークの充実

講演時間が長く、ディスカッションの時間が不足したため、双方向の学びの場を増やすことを希望。

#### ◆継続的なフォローアップ

「やさしい日本語」の定着には、定期的な研修や実践例の共有が有効だと感じたため、フォローアップの機会を要望。

#### ◆地域全体への啓発

外国人住民との交流機会を増やし、地域全体で「やさしい日本語」の意識を高める取り組みが必要。